



学校だより

平成27年12月21日 No.26

教育目標

- か 考える子ども
- が がんばる子ども
- や やさしい子ども
- け 元気な子ども

こたき

いわき市立小名浜西小学校長 高木清美



92-4013
92-4019

今年もお世話になりました



やっと冬らしい日が続くようになってきました。小滝山の木々もすっかり葉を落としたお陰で、小名浜の街並みや太平洋がよく見えるようになりました。暑かった体育館での始業式からはや4ヶ月、明日無事に2学期の終業式を迎えることができそうです。

2学期は、学習発表会、方部音楽祭（4年）、見学学習、宿泊活動（5年）、修学旅行（6年）、持久走大会などの大きな行事が目白押しでした。校舎の耐震化工事も終了し、本来の教室に戻って授業ができるようになりました。子どもたちは、前向きに行事に参加し、豊かな体験を通し多くのことを学びました。普段の授業でも「考える子ども」のめあてに向かって熱心に学習に取り組む姿が多く見られました。今後も、自ら挑戦したり、一步一步努力したりできる子どもの育成に向けた指導を心がけたいと思います。これまで、ご協力・ご支援を賜りました保護者の方々、地域の関係者の皆様に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、明日から16日間の冬休みとなります。子どもたちが家庭・地域に戻ります。家族団らんの中で、年末年始の伝統的な行事や習わしに触れる機会を大切に、有意義に過ごせるよう願っております。子どもは、学校では掃除もじょうずにしますし、配膳だってできます。大人が思っている以上に生活の力もついていると思います。いろいろなことを任せてみてはいかがでしょうか。やらせなければ、いつまでたってもできません。失敗がよい経験となります。家庭内のちょっとした仕事でいいですので、ぜひ経験させてみてください。その経験は、家族の役に立っているという気持ち産み、自己肯定感を高め、前向きに生きる力の源になってくれると思います。事故防止につきましては、本日まで学校でも十分指導しましたが、ご家庭でもなお一層のご指導をお願いします。無事故で3学期が迎えらるるよう願っています。よいお年をお迎えください。

市造形展への出品作品紹介

時：28.1.9（土）～1.10（日） 於：文化センター



1年 小野寺賢心



1年 小山 葵



1年 永山育海



2年 佐川綾菜



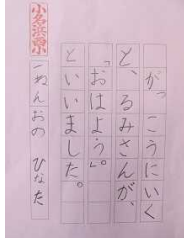
2年 川名蓮人



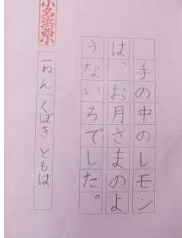
2年 嵐海登

市書写展への出品作品紹介

時：28.1.16（土）～1.17（日） 於：ラトブ6階展示室



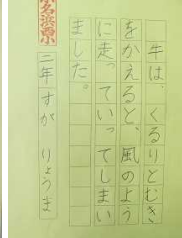
1年 小野ひなた



・ 久保木友葉



2年 永澤泰子



・ 菅 竜馬





3年 薄井ユリ花



3年 高野宇太



3年 森本竜智



4年 石井凜花



4年 安彦嘉人



4年 菅波叶人



5年 比佐百花



5年 鈴木愛理



6年 津田捺帆



5年 杉本そら



6年 高木ゆうな



6年 三瓶愛七



※作品は西小HPにも掲載中

読書感想文コンクール いわき地区特選(市代表作品)

「ひまわりのおか」を読んで

4年 植杉心咲

「なぜ、自分の大切な人が死んでしまうのかな。どうして、大好きな人が天国へいってしまうのかな。」

私がずっとずっと心の中に持っている悲しい思い。その思いに重ね合わさるように、この「ひまわりのおか」という本に出会いました。2011年3月11日。東日本大震災。宮城県石巻市にある大川小学校で74人の子どもたちと10人の先生方が津波で命を落としました。子どもたちのお母さんは、小学校の近くの花だんががあったおかに、ひまわりを植えはじめます。津波にのまれたおかは、潮をかぶり、ひまわりも育ちにくい。でも、お母さんたちは毎日たっぷり水をやり、ひまわりの世話をします。

私のおじいちゃんは、震災の時、大川小学校の子どもたちのように津波にのまれ、何とか助けられて命はとりとめました。バスの運転手をしていたおじいちゃん。小さいころ、いっしょにお祭りに行ってくれたおじいちゃん。バイクの事故にあったから、ずっと病院で入院生活をしていました。おじいちゃんのお見まいに行くと、「来たかあ。」と、元気にここにこしてむかえてくれました。震災の時、命こそ助かったけれど、津波で海の水をたくさん飲んでしまったことが原因で、おじいちゃんはその後にお空にいつてしまいました。大好きなおじいちゃんだから、亡くなった時とても悲しかったけれど、それに負けないうらい、大切な楽しい思い出がたくさんあることに気づきました。大川小学校の子どもたちのお母

さんも、きっとそれは同じだと思います。

最初はひょろひょろやせっぽっちだったひまわりは、お母さんたちのお世話のおかげで、台風の強い風に負けることなく、たくましく育っていったのです。お母さんたちの背たけをこえて、太いくきと大きくなった葉っぱをつけて。ひまわりが育っていく間にも、まだ見つからない子どもたちのそうさく活動は続きます。そして、何か月もたってから見つかる子もいます。ひまわりのお世話をしながら、いなくなった子どもたちに語りかけ、お手紙を書き、思い出を振り返ります。お空にいった子どもたちが、きっとお母さんたちのそばにいられない分、ひまわりを守ってくれるのだと、私は思います。

おばあちゃんの家に行くと、仏だんで、おじいちゃんのやさし顔が、「来たかあ。」と私に笑いかけてくれます。大好きなおじいちゃんは帰ってこないけれど、いつも空から見守ってくれているのだと思います。だから私は、私自身の目の前にある未来に向かって、せいいっぱい生きていこうと思うのです。大川小学校のひまわりのおかのひまわりのように、びかびか咲けるように、がんばろうと思ったことをと中であきらめずに、最後までやり通してみようと思うのです。



お知らせ

11月に行われた横浜FC復興支援イベントの写真入り下敷きが届けられました。本日、子どもたちに配付しました。